



一般財団法人

函館国際水産・海洋都市推進機構



Newsletter 第30号 2014年6月10日



目次

函館市国際水産・海洋 総合研究センター供用開始	-----	2
機構の活動	-----	3
地域の活動	-----	4
コーディネーターの 最新情報	-----	6
イベント情報	-----	6

函館市国際水産・海洋総合研究センター 供用開始!!



研究センター本館

敷地内には、海洋調査船や練習船の接岸・寄港を可能とする港湾機能も備え、また、250名程の収容力を持つ会議室もあり、世界各国の大学や研究機関、企業等との研究・開発に関する交流が盛んに行われことが期待されます。さらに、300tの容量をもつ大型実験水槽を見学できるエントランスホールや、函館港を一望できる4階展望ロビーは、一般市民にも開放しております。

6月2日には開所式が執り行われ、北海道の高橋はるみ知事や国会議員など関係者約250名が参加し、テープカットが行われました。

6月3日には、同時通訳により、国際シンポジウム「食とバイオ国際交流シンポジウム2014」が開催され、大会議室で講演後、エントランスホールでポスターセッションが行われ、約150名の参加者が来場しました。



開所式 高橋知事挨拶の様子

平成26年6月2日に函館市国際水産・海洋総合研究センターがオープンしました。

本研究センターは、国際的な水産・海洋に関する学術研究機関が集積する中核拠点であり、当機構は函館市より指定管理委託を受け、運営管理を行います。



北海道大学水産学部附属練習船おしよ丸



函館水産試験場試験調査船 金星丸

当機構は、研究センターを中心に行われる海藻研究やマリンIT研究等、広く水産・海洋に関わるテーマについて、産学官連携を図り、先端的かつ独創的な研究開発を推進し、世界をリードする新産業や新技術開発の取り組みを発信していきます。

函館市国際水産・海洋総合研究センター

住 所 函館市弁天町20-5

開館時間 月曜日～金曜日 9:00～17:00

日曜日(6～8月末まで) 10:00～16:00

※休館 土曜日、日曜日(9月～5月)、祝日、

12/29～1/3

<問合せ先>

電話 0138-21-4600

FAX 0138-21-4601

URL <http://center.marine-hakodate.jp/>

機構の活動

平成 26 年 3 月末から
平成 26 年 5 月まで



函館国際水産・海洋都市構想シンポジウム

開催

H26.3.26



シンポジウムの様子

函館国際水産・海洋都市構想シンポジウムをホテル函館ロイヤルにおいて開催しました。本シンポジウムは、海の環境において重要な役割をなす海藻の増殖や海のモニタリング手法などについて、函館市国際水産・海洋総合研究センターの入居機関である、(株)エコニクス 代表取締役社長 伊藤聡 氏、共和コンクリート工業(株) 海藻技術研究所アルガテック Kyowa 所長 北山進一 氏、さらに藻類利用の先端事例について、北海道大学人材育成本部 特任教授 鷲見芳彦 氏にも講演を頂きました。当日は、約 70 名の来場者があり、同構想や研究センターへの関心の高さがうかがえるシンポジウムとなりました。

平成 26 年度第 1 回理事会 平成 26 年度定時評議員会

開催

H26.5.2

H26.5.26

平成 26 年度第 1 回理事会を函館市産学官交流プラザにて開催しました。理事会では石尾代表理事を議長とし、議案第 1 号平成 25 年度事業報告について、議案第 2 号 平成 25 年度決算報告について、議案第 3 号 委員・顧問・アドバイザーの選任及び退任について、議案第 4 号 平成 26 年度定時評議員会招集について審議が行われ、すべての議案について異議なく原案通り承認されました。

また、理事会の議決を受け、平成 26 年度定時評議員会をロワジールホテル函館にて開催しました。定時評議員会では、松本評議員長を議長とし、先に開催された第 1 回理事会での決議事項である、「平成 25 年度事業報告」「委員・顧問・アドバイザーの選任及び退任」について報告を行った後、議案第 1 号平成 25 年度決算報告について、議案第 2 号 評議員・理事の選任及び退任について、議案第 3 号 定款の改正について審議が行われ、すべての議案について異議なく原案通り承認されました。



評議員会の様子

<就任>

評 議 員	
函館商工会議所副会頭	久保 俊幸 氏
北海道大学大学院水産科学研究院長	安井 肇 氏
理 事	
北海道大学大学院水産科学研究院副院長	木村 暢夫 氏
函館商工会議所副会頭	境 勝則 氏
顧 問	
北海道開発局函館開発建設部長	渋谷 元 氏
北海道渡島総合振興局長	宮内 孝 氏
アドバイザー	
(増員)	
北海道大学大学院水産科学研究院 特任教授	桜井 泰憲 氏

運営協力委員会	
(公社) 函館法人会青年部会部会長	山口 英明 氏
(地独) 北海道立総合研究機構水産研究本部	
函館水産試験場長	金森 浩一 氏
函館市港湾空港部長	國安 秀範 氏
公立はこだて未来大学社会連携センター長	田柳 恵美子 氏
函館市国際水産・海洋都市推進室長	本吉 勲 氏
(一社) 函館青年会議所理事長	國本 直弘 氏

平成26年イカ資源評価と予測に関する講演会

開催

H26.5.29



総合討論の様子

平成26年度 イカ資源評価と予測に関する講演会を北海道大学水産学部講義棟大講義室にて開催しました。講演会では、(独)水産総合研究センター東北区水産研究所資源海洋部浮魚・いか資源グループ長 酒井光夫氏、(独)水産総合研究センター日本海区水産研究所資源管理部資源管理グループ長 木所英昭氏、(独)水産総合研究センター北海道区水産研究所資源管理部浮魚資源グループ長 山下紀生氏、(地独)北海道立総合研究機構水産研究本部函館水産試験場調査研究本部研究主査

澤村正幸氏、北海道大学大学院水産科学研究院教授 齊藤誠一氏が講演を行いました。その後、北海道大学大学院水産科学研究院特任教授 桜井泰憲氏が進行役となり、参加者からの質疑応答を含めた総合討論が行われ、会場からの質問などを受け、様々な意見が交わされました。当日は200名の来場があり、水産業界関係者だけではなく函館市民も多く参加し、イカ漁に対する関心がかがえる講演会となりました。

地域の活動

平成26年3月末から
平成26年5月まで



日本水産学会 平成26年度春季大会 開催

H26.3.27-31

3月27日から31日まで、北海道大学函館キャンパスを会場に平成26年度日本水産学会春季大会が開催されました。

研究発表の演題836題の他、一般公開されたシンポジウム6件、勉強会1件、講演会1件も開催され、海外からの研究者や非会員も含めて参加者は1,100名を超え、活発な討論が行われました。

3月29日の夕刻には、函館市国際水産・海洋総合研究センターの見学会が行われ、函館市が目指す「国際的な水産・海洋に関する学術研究拠点都市」のシンボルとして建設された施設を全国の水産・海洋分野の研究者に披露しました。

また会員交歓会では、ガゴメコンブの有効利用や製品開発研究の過程で誕生した「ガゴメマン」や、函館観光のPRキャラクターとして全国的に話題となった「イカール星人」も登場し、存分に函館の味覚を堪能できた情報交換の場となりました。



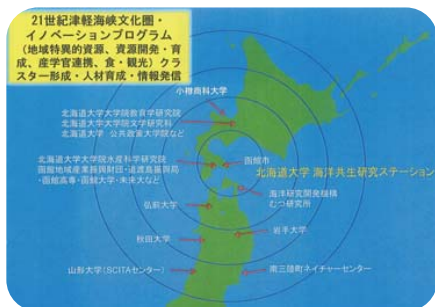
講演会場の様子

函館マリンバイオクラスター本部会議 開催

H26.3.25

文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラム(グローバル型)函館マリンバイオクラスターの第2回本部会議が開催され、伏谷推進機構長が本部会議委員として出席しました。

この会議は、本事業における最後の会議となり、この5年間での成果は高く評価されました。本事業の取り組みは、韓国、中国や台湾の大学研究機関との交流にまでグローバル化し、今後、シンガポールとの連携も始まり、周辺のアジア諸国への展開について、委員全体で確認するとともに、この事業の成果をさらに発展的なものに繋げていくためには、これから各機関がさらに連携を深めて、チャレンジしていくことが重要であると再認識し閉会しました。



当日の講演内容

函館水産研修会主催による 4 月度例会が、函館国際ホテルで開催されました。北海道大学大学院水産科学研究院長 安井肇 氏を講師に迎え、「21 世紀津軽海峡文化圏、水産・海洋の産学連携イノベーションについて」と題して講演が行われました。函館市国際水産・海洋総合研究センターを拠点とする水産・海洋プラットフォーム構築への期待、地域特異的資源と経済を含む『津軽海峡文化圏』（北海道 + 北東北 4 県）という視点からの説明を行い、北海道大学をキーステーションとする海洋共生学（海と共に発展していく考えのもと、海を壊さず、産

業も育成し、文化も生み出す）と人材養成により、地域資源の科学と共にグローバルイノベーションを起こして行きたいと語り、参加した会員の関心を集めていました。

「ものづくり広域連携推進事業」キックオフ説明会 開催

ロワジールホテル函館において、函館市主催による「ものづくり広域連携推進事業」キックオフ説明会が開催されました。

第 1 部は、事業内容説明として、(一社) 首都圏産業活性化協会 (TAMA 協会) の専務理事 岡崎英人 氏より「国内外のマッチングをプロデュースする TAMA 協会の活動概要」と題して、協会の活動状況や成功した企業の事例について講演が行われました。

続いて同協会の大企業連携マネージャー 浅野秀藏 氏より「ものづくり広域連携事業の事業内容について」と題して、『TAMA ワザ自慢 100』へ掲載する「製品・技術 PR レポート」作成のポイントやコツなどの解説がされ、そのレポートを見た大手企業が中小企業にコンタクトする指名方式などが特徴の連携交流会の概要についての説明が行われました。

第 2 部の交流会では、講演者と地元民間企業や公的機関など様々な方が名刺交換を行い、懇親を深める機会となりました。



説明会の様子

平成 26 年度北海道立工業技術センター研究成果発表会 開催



研究成果発表会の様子

ロワジールホテル函館を会場に平成 26 年度北海道立工業技術センター研究成果発表会が行われました。さまざまな分野・用途への応用可能性を秘めた基礎研究から、私たちの生活に役立つ実用化への道筋が見えている研究、また産学官連携で迅速に研究開発を進めている手法の紹介など、それぞれのフェーズや視点から 7 つの研究成果が発表され、100 名を超える来場者がありました。

その他に、ポスター展示や、コンブ製品や函館近郊に自生するハーブであるクルマバソウの香りが広がる「クルマバソウアイスクリーム」などの試食がありました。

発表会後の交流会では、冒頭の挨拶で北海道立工業技術センター長 三浦汀介 氏より、ビジネスの視点を持って事業化を目指し、持続的な発展につなげていくことの重要性について話があり、参加者の活発な交流が行われました。



コーディネーターの最新情報

魚長食品取材～いか飯製造体験～



5月14日、魚長食品のグループ会社で水産加工品製造を行っている(株)かくまが、いか塩辛、いか飯と松前漬の製造体験を、ベイエリアの西波止場にある体験観光施設「手造りいか工房いかベイ」で行いました。4月26日にオープンしたばかりのこの施設は、修学旅行生や国内外の観光客に対して、いか塩辛やいか飯づくりなどの体験を通して函館の食文化を身近に感じてもらうと同時に、2016年の北海道新幹線開通を見据えて、観光客に人気が高い体験型観光に対応することを目的として始めたものです。

説明会の様子と
手作りいか飯

この日は、旭川からの修学旅行生126名が製造を体験しました。まずは同施設の責任者である魚長食品営業部マネージャー 大西修司氏から、いかを使った道南の食文化について北前船の時代からの歴史も含めて話があり、その後、生徒達はエプロンと手袋に帽子をかぶって製造体験を楽しむとともに、自分達で作ったいか飯の美味しさを味わいました。製造体験を通して道南の食文化への関心が高まることが期待されます。

<キャンパスコンソーシアム函館 合同公開講座函館学 2014 第3回「美しい大沼アオコから守る」～開催のお知らせ～>

キャンパス・コンソーシアム函館では、加盟機関がもつ知的資源を地域住民に知ってもらうとともに高等教育機関を身近に感じてもらうことを目的に合同公開講座「函館学」を実施しています。「函館学」では地元「函館」をキーワードに加盟機関の教職員が講義を行っています。計6回開催されますが、第3回は函館市国際水産・海洋総合研究センターを会場に行われます。

【日 時】2014年7月12日(土)

【講 師】北海道大学大学院水産科学研究院 教授 今井一郎氏

※函館学全講座の詳細は、こちらのホームページから
ご確認ください。
<http://www.cc-hakodate.jp/hakogaku/>



<マリンフェスタ2014～開催のお知らせ～>

【日 時】2014年8月24日(日)

【場 所】函館市国際水産・海洋総合研究センター
(〒040-0051 函館市弁天町20番5号)

詳細については、
次号 Newsletter で
お知らせします。

発行：一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構

〒040-0051 北海道函館市弁天町20番5号

函館市国際水産・海洋総合研究センター

TEL：0138-21-4700 FAX：0138-21-4601

URL：<http://www.marine-hakodate.jp/> E-mail：office@marine-hakodate.jp

